



~13
4415
1



かゝるも是神子の御りたる家も斯くも
おぼつと云はれ斯くも居るも多し一白も
又ありしるも昔はらんて今も是後緒を
とほするに契情氣質と異しと様本
に春と知する紋目のらん人の居かゝに
らぬるのつまぐらふゆみ

明和八年
卯睦月

作者
増舎大梁

端傾城質氣を之巻

同録

第一 大信も等質のち女房の揚格

胸らん用ちらうハ紋目入り初封面

一歩れ敷は百平三の揚格のてあり

終げいせんれ名高と様貴人の出世

才二

授義三三三世相ハ賢徳乃徳分

小姓ノ果ハ其の如くつとあかこのに

の事少シ然るも上ノ下ノ心ハ上

看理あつと出さると母の心月待

才三

地獄ノ事ハ一歩道中一歩死

備軍ノ一周まを後見にとりあひ

百五文の利目づりの結ハ御徳文

しむげし文ハ輝とひりりちん教

一

大屋も算盤よかあて女房ハ揚法

七あゆみのハ歩たを云わづ一人の能事あるのあり

うたののこもつとびん又うらひのさるも思ひのこした

智恵ハ不定老界と観ト新入のめを川とわりあてわ

そののこさへさめとねをん其ののよと業とらん

方棚のほりともさそりいとたかしのまぬさまつとれし

くりごさへしとたてあまなるとあやこもとのひあけを

うけのいざれあそをれと算用ちよて買ひ入り

まつれつけうりもやぶ心あつとむらひのさるを

わりとくこまのこもも格子よろしく大老いん



○大屋も算盤よかあて女房ハ揚法



あよと懐信のついでに... の... の...

二 投義の三世おひけりせいの備前

親せらん衆あけふ... 標あがふ... 子の里よそ... 備前よそ...

一番の酒をとり... けいひ橋あそ... たりぬそ... びよそ... 情多乃名... 作して久... 田の根山... 海つら... よあり... 東の津... せん...



此の御書に云くは、
「カサハカサハト云くは、
のちまがしきりてあり、
ひきよめて、
毒よりまじり、
とらふと云くは、
をいふと云くは、
てあり、
せしむるに、
終ては、
ふせしむるに、

ゆへに、
よて、
よあ、
とら、
のち、
耳、
粹、
あ、

③ 地獄の書が、
去史一巻及申伝

空、
う、
り、

月より年のくまこまその後日よ其石とて...
 とくらのにらむ十日のより二午の...
 月三ヶ月よりたるまてあてあり月もあ...
 物年すあ月の...
 あらぐんばあよ...
 月やうてが...
 月あんと...
 うま...
 あ...
 ぐ...
 入...



あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...

あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...
あつちの事... 白磁... 神と...

Handwritten marginal notes on the left edge of the page.

